２０２６年１０月９日発行

観音寺中学校　道徳通信　10月号



10月は合唱コンクール、職場体験学習、ふるさと学習と行事が目白押しの月です。特にせまる合唱コンクールに向けて、生徒たちは、朝早くからクラスのハーモニーを響かせて一生懸命に練習に取り組んでいます。どのクラスにとってもみんなと頑張ったことが良い思い出になるように、合唱コンクールもそれぞれの学年の行事も、全力で取り組みましょう。

今回は、９月に実施した１年生の道徳の授業を紹介します。

『金賞を目指して』　【よりよい学校生活、集団生活の充実】

あるクラスの合唱コンクールに向けての練習を行っている場面。練習や合唱に対して、３人の中学生の本音が綴られている。クラスの中には、頑張りたい生徒、苦手な生徒などみんな同じ気持ちではない場合も多い。立場や考え方が異なる３人の心情を追いながら、どんな声かけをするか、また「クラスの目標を達成するために大切なこと」や「よりよい集団になるためにどんなことが必要か」を今の自分と重ねながら、深く考えました。

授業の感想（生徒記述より）

一人ひとりが自信をもって歌えるように、声かけや工夫した行動が大事。でも、声かけは、その人が言われたら本当に頑張ろうと思えるかを考えないといけない。

「みんなで協力！」ということが一番大切だと思いました。合唱なので、誰が抜けてもダメで、みんなで完成させることに意味がある行事だと思ったからです。

一人一人違う気持ちをもっていることを（道徳の教材を通して）知り、自分の気持ちも大切だけど、相手の気持ちもわかってあげることで、思いが重なっていくと思いました。



みんなで協力して、一生懸命になることが必要。一人一人の意見も大切だけど、みんなで作り上げていく合唱コンクールの方がいいと思う。

「金賞をとる！」だと、ちゃんとやっている、やっていないってなってしまうけど、メンバーみんなで、全力で楽しめるようにしたら、自然にいい合唱になって、金賞もついてくると思った。

金賞とりたいって思っている人が周りにいるから、自分の気持ちだけを押し通すのではなく、相手のことも考えて頑張りたい。

クラスの一人一人が合唱練習についてどう思ってるかを改めて知る良い機会になった。たぶんこの3人のように思っている人もいると思うので、お互い話を聞いたり、声を掛け合ったりしたいと思う。

人によって苦手は違うから、言い方を工夫したり、周りの意見も聞いたりして、それぞれの苦手を知って考える。

クラスみんなで協力して、全員が助け合いながらすることが大切だと思った。全員が頑張ることで、いいものができると思うし、苦手な人を得意な人が助けてあげたらいいと思いました。

みんなで頑張るときはトラブルも起きるし、思いが分かれるときもあるけど、全員で思いを同じにして頑張ることがいいと思います。

返信をありがとうございます。～道徳通信9月号の返信より～

- 振り返ったときに全力で頑張ったと思えるような一人ひとりにとって、最高の合唱祭になることを目指すことを大切にしてほしいです。みんなが心を一つになる瞬間を体感し、クラスの団結力や絆をより一層深めいけたらと思いました。
- 今まさに合唱コンクールの練習に頑張っているところだと思います。一つの目標に向かっての合唱に期待したいと思います。
- 合唱祭は、みんなと一つにまとまってみんなに練習の成果を伝えられたら、大人になって思い出したときには、良い思い出になっていたら、最高です。

ご返信、ありがとうございました

ご感想やご意見がございましたら、LEBER（リーバー）のアンケート「返信欄」にてお気軽にご回答ください。たくさんのご返信をお待ちしております。